

# 社会資本総合整備計画 事後評価

平成28年3月  
愛知県岡崎市

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成28年3月29日

計画の名称	1 道路交通の安全と円滑化及び沿道の環境改善による拠点の市街地の形成																																	
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）					交付対象	岡崎市（愛知県）																											
計画の目標	鉄道駅周辺の都市機能が集積したエリアにおいて、道路交通の安全と円滑化に資する道路整備等を実施することにより、災害に強く、地域住民が安心して安全に生活でき、賑わいと活力ある「道路を中心とした都市空間」を創出する。そして、集約的都市構造の核となる拠点の市街地整備を形成し、歩いて暮らせるまちづくりを実現することで、沿道の環境改善を図る。																																	
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地整備事業施行中の拠点の市街地における安心・安全生活エリアカバー面積を40.0ha（H23）から40.2ha（H27）に拡大</li> <li>市街地整備事業施行中の都市計画道路を整備し、歩行者のバリア等の解消率を57.3%（H23）から72.7%（H27）に拡大</li> <li>市街地整備事業施行中の環境改善率（使用収益開始率）を78.6%（H23）から98.2%（H27）に拡大</li> </ul>																																	
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H23当初)</th> <th>中間目標値 (H25末)</th> <th>最終目標値 (H27末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路等：30m）のエリア）を調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計を算出する。</td> <td>40.0ha</td> <td>40.1ha</td> <td>40.2ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 区域内の都市計画道路の歩道整備率（歩行者のバリア等の解消率）を算出する。 （歩道整備率）＝（歩道整備が完了した都市計画道路延長）／（区域内の都市計画道路延長）</td> <td>57.3%</td> <td>64.2%</td> <td>72.7%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 区域内の環境改善率（使用収益開始率）を算出する。 （環境改善率）＝（使用収益開始面積）／（地区内の使用収益面積）（%）</td> <td>78.6%</td> <td>95.9%</td> <td>98.2%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	① 災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路等：30m）のエリア）を調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計を算出する。	40.0ha	40.1ha	40.2ha		② 区域内の都市計画道路の歩道整備率（歩行者のバリア等の解消率）を算出する。 （歩道整備率）＝（歩道整備が完了した都市計画道路延長）／（区域内の都市計画道路延長）	57.3%	64.2%	72.7%		③ 区域内の環境改善率（使用収益開始率）を算出する。 （環境改善率）＝（使用収益開始面積）／（地区内の使用収益面積）（%）	78.6%	95.9%	98.2%	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																														
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)																															
① 災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路等：30m）のエリア）を調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計を算出する。	40.0ha	40.1ha	40.2ha																															
② 区域内の都市計画道路の歩道整備率（歩行者のバリア等の解消率）を算出する。 （歩道整備率）＝（歩道整備が完了した都市計画道路延長）／（区域内の都市計画道路延長）	57.3%	64.2%	72.7%																															
③ 区域内の環境改善率（使用収益開始率）を算出する。 （環境改善率）＝（使用収益開始面積）／（地区内の使用収益面積）（%）	78.6%	95.9%	98.2%																															
全体事業費	合計 (A+B+C)	306百万円	A	304百万円	B	0百万円	C	2百万円	効果促進事業費の割合 C／(A+B+C)		0.7%																							

  

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	事後評価の実施時期
事後評価の実施体制	平成28年3月
整備計画の策定主体の所管部署において事後評価を実施し、岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会にて評価内容を審議し評価結果の取りまとめを行う。	公表の方法
	岡崎市ホームページ上にて公表

  

1. 交付対象事業の進捗状況																	
交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
1-A-1	街路	一般	岡崎市	直接	岡崎市	区画	改築	岡崎駅東地区（（都）岡崎駅平戸橋線外）	区画整理 A=40.2ha	岡崎市						288.1	
合計											288.1						
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
1-C-1	施設整備	一般	岡崎市	直接	岡崎市	-	岡崎駅東地区防犯灯整備	防犯灯 6基	岡崎市						0.1		
合計											0.1						
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
1-C-1	岡崎駅東土地区画整理事業(1-A-1)にあわせ、区画整理の生活圏の防犯灯の整備を進めることにより、安全安心なまちづくりを行う。																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・幹線道路や区画道路を計画的に整備した結果、建築物の密集した街区の発生を回避でき、災害リスクが低下した。
- ・電線共同溝や点字ブロックを整備した結果、歩道におけるバリアの解消が進み、歩行空間の安全性が向上した。
- ・使用収益の開始が進捗することで、使用できなかった土地の都市化が促進され、都市環境の改善がなされた。

II 定量的指標の達成状況	指標①（安全・安心生活エリアの拡大）	最終目標値	40.2ha	目標値と実績値に差が出た要因	—
		最終実績値	40.2ha		
	指標②（歩道のバリア解消）	最終目標値	72.7%	目標値と実績値に差が出た要因	・電線共同溝の整備に伴い電柱を撤去して歩道上障害物を除去すること、及び、誘導ブロックの配置によるバリアフリー化の推進で、歩道のバリア解消を実施していく予定であったが、占用予定者との調整に時間を要し、電線共同溝の整備と電柱撤去後の入線が計画通りに進捗しなかったことから、予定していた全路線のバリア解消を完了させることができなかった。
		最終実績値	66.0%		
	指標③（環境改善率の拡大）	最終目標値	98.2%	目標値と実績値に差が出た要因	・円滑に事業が推進できたため、最終目標値を上回って達成した。
		最終実績値	99.9%		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

3. 特記事項（今後の方針等）

今後も引き続き都市計画道路の整備を進めていくことで、ネットワークの充実及び通行空間の快適化を図り、地域住民が安心して安全に生活でき、歩いて暮らせるまちづくりを実現する。

(参考様式3)

(参考図面) 活力創出基盤整備

